



二代目が導入した米国製印刷機。50年以上経た今も現役で活躍している。



卓越した彫刻技術によって銅版が作られる



銅版に品格を刻む  
もっとも高級でフォーマルな印刷

# 銅版印刷

## 欧米で長い歴史と文化を持つエングレービング

欧米では、結婚式の招待状を印刷する際、「エングレービング」を選ぶことも多い。エングレービング(銅版印刷)とは、銅板に彫刻を施し、彫った箇所インキを詰め、プレスしてインキを紙に転写させるという印刷技法。細かい線が際立って見え、インキの濃度が高く、色に深みがある。印刷された文字を手で触れば、インキが盛り上がっていて存在感を放つ。欧米ではもっとも高級でフォーマルな印刷として、長い歴史を持っている。一流ホテルのレター用紙や高級ブランドのインビテーションに使用されたり、皇室、各国大使公館等の公的印刷物にも使用されている。その他にも、手彫りであるため偽造防止効果が認められ、世界で流通する紙幣の文字や絵柄のほとんどは銅版印刷で印刷されている。

エングレービングの歴史は古く、中世ヨーロッパで騎士たちの甲冑や刀剣の飾り模様を複製する技法として発達し、やがて装飾の絵柄を記録するために彫刻した凹部にインキをつめてプレス機で印刷するようになり、15世紀頃までに広く普及するようになった。

現在では米国が最も盛んで、次いでフランス、イギリス、ドイツなどで多用されている。

## 文字の細部に宿る美しさ。国内唯一の特別な印刷

日本においては、現在、銅版印刷を行うのは民間では唯一となる会社が東京・勝どきに存在する。創業は大正6年。三代目にあたる銅版印刷株式会社・鈴木 聡代表取締役社長にその歴史についてうかがった。

「もともと大手印刷会社の凹版部に所属していた祖父が独立をして、創業しました。当時は100社くらい同業者が存在していました。主に株券などを銅版印刷で印刷していましたが、手作業で一枚一枚刷っていたため時間が非常にかかりました。そこで父である二代目が、米国とドイツから印刷機を導入しました。安く大量印刷する技術が普

及するとともに同業者は姿を消していきましたが、弊社はステーションリーに力を入れることで、銅版印刷の魅力を活かしてきました」

現在、行われている銅版の製作工程は、厚さ1.5mmの銅板に写真製版をした後、薬剤に漬けて腐食させた後、線が太いところなど、腐食が足りない部分をグレーバーという道具を用いて手作業で彫っていく。やわらかい銅を使用しているため、印刷部数が多い場合は耐刷力(限界通し枚数)を上げるため、表面にハードクロムめっきを施す。できた銅版をプレスして印刷するため、印刷後の紙は裏にプレス跡が残るのが特徴的である。またインキは専用の水溶性インキを使用し、紙はコットンを含んだ紙を使用する。いずれも国内では入手困難なため輸入品を使用している。

銅版印刷には、卓越した彫刻技術と熟練のノウハウが必要だと言われている。そのどちらも持ち合わせているのが鈴木氏。「国内唯一の存在として、私どもは特別なことをしているという自負があります」と鈴木氏は語る。エングレービングの文化が根付いた海外では豊富な知識を持つ人が多いが、国内のデザイナーはまだ知らない人が多い。それでも海外の印刷物を見て、新しい表現方法として興味を持つ人も増えている。線は凛と際立って、色は深く落ち着き払っている。文字の細部に宿る美しさ。その魅力に気づくことはこの国の豊かな文化の醸成に繋がっていくのだろう。



銅版印刷株式会社 代表取締役社長 鈴木 聡氏



初代が彫刻した銅版によって印刷された株券